



TSUNAGU

- 小から中への滑らかな接続におけて -

令和8年1月16日

我孫子市小中一貫教育だより
第404号

我孫子市教育委員会 小中一貫教育推進室



我孫子市マスコットキャラクター
「手賀沼のうなぎちゃん」

我孫子市が小中一貫教育で目指す子ども像

- 「ふるさと我孫子」を愛し、誇りに思う子ども
- 確かな学力を身につけ、夢を持ちチャレンジする子ども
- 自分に自信を持ち、自他を大切にする子ども



布佐地区キャラクター
「ふさだ だしお」

小中一貫オリジナルカリキュラム授業実践の様子を紹介するうな～！

未来に残してつなぐ ふさ カリキュラム～布佐南小・6年生「夢に向かって」

布佐南小学校6年生が総合的な学習の時間で、オリジナルカリキュラムに位置付けた「夢に向かって」を行いました。「職業人の話を聞き、仕事をするうえで大切なことを学び今後の自分の在り方について考える」を柱としました。

今回は「南極隊員」の方を招いての職業人講話でした。実際に南極に行き体験された貴重なお話でした。映像をたくさん準備されていたので、生活の様子や「ブリザード」などの気象条件の大変さを視聴した子どもたちからは「驚きの声」が何度も上がりました。南極全体の氷の量や気温、天候の厳しさなどの説明では、顔に空気があたり凍っていく様子など衝撃的でした。児童から思わず「人間は生きていけるの？」という感想もありました。全体的には「苦難の生活」が予想されましたが、食事やトイレ設備等は予想していたものよりも私たちの日々の生活に近く、子どもたちにはホッとした表情がありました。

南極は基本的には感染症がないので、(菌が生きられない)、コロナ渦の時期には、その防御態勢に慎重を期したことや「ブリザード」で天候が荒れた時は、ドア一枚開けるのに、より慎重に行動し、複数の隊員で対応するなどの苦労があった話に感心していました。

進行の途中、クイズ形式で南極に関する問題が出され、子どもたちは首をひねりながらも一生懸命考えて、クイズを楽しんでいました。終盤には質問コーナーがあり、「時差」のことや「気温」のことなど聞いていました。

締めくくりの話として、ある隊長さんが「やってみなければ、何もできない、生まれない」の言葉を残し、チャレンジ精神とあきらめない心の大切さが受け継がれているという話を聞きうなずいていました。南極隊員になりたいと思った人も多く、「特別な職業」について興味が深まり、来年度の中学生での幅広い職業の学習につながる効果的なものであったと思います。



こほく・あらき ふれあいプロジェクト～湖北中・2年「我孫子特別支援学校交流」

湖北中学校2年生で、オリジナルカリキュラムとして我孫子特別支援学校との交流会が行われました。「お互いを尊重し合う大切さを学ぶ」の単位として、総合的な学習の時間での取り組みを通して準備を進めてきました。

当日は、我孫子特別支援学校に伺いました。まずはじめの会が行われました。生徒たちが主体となって準備や運営に取り組んでおり、特別支援学校の生徒も「楽しい思い出をつくりたい」と話しました。湖北中生6名程度のグループに支援学校の生徒が1～2名加わり、グループ内で自己紹介をしました。生徒たちが考えたテーマ「好きな食べ物」「好きなYouTube」などを入れて紹介し合い、和やかな雰囲気がつくることができました。

次に、体育館と教室に分かれて「T ボール」をしました。上手くいっても、いかなくても一つ一つに拍手や歓声が上がリ、すぐに仲良くなれる湖北中生たちに感心しました。最後には手を取り合って喜んだり、別れを惜しんでハイタッチしたりする姿が印象的でした。

「互いの違いや良さに気付き、コミュニケーションの取り方を工夫することで、安心して過ごせる地域にしたい」と語った代表生徒の言葉に、湖北地区の温かい人々のつながりを感じる時間となりました。

